

## 第2章に関する意見

「超スマート社会」が目指すのは、先端的な科学技術をシステムを通じて社会実装し、さらに、これらを連携協調させることにより、新たな価値を効果的かつ継続的に創出しようとするものと理解しました。また、これを実現するために、IoT サービスプラットフォームを設定し、この構築に必要な基盤技術の強化が掲げられており、戦略的な研究開発の方向付けがなされていると考えます。

システムを通じた価値創出には大いに賛同しますが、これらのプラットフォームや基盤技術を研究開発するには、システムに求められる機能、実現、品質等の要件とそれらの構成を普遍性をもって明確にしておかなければなりません。これらは、一般に参照モデルと呼ばれ、技術開発、知財開発の海図となるとされています。NIST は、昨年から CPS 参照モデルの開発に注力していますが、日本として「超スマート社会」に関する参照モデルを構築する必要があります。

自然との共生感を正しく持つ日本では、実空間それ自体が強い因果性を持った拘束条件を形成していることが認識され、さらに、連携協調においても独自の文化を育ててきており、世界の関心を集める参照モデルを構築できると期待されます。

このような参照モデルは、システム科学技術者や情報科学技術者が中心となって、さらに、人文社会科学者の参画も得て、産学官が一体となって開発することが必要です。